



発行：NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21  
 編集責任者：奥野 享  
 事務局：豊中市環境情報サロン内  
 〒561-0804 豊中市曾根南町1-4-3  
 Tel:06-6863-8792 Fax:06-6863-8734

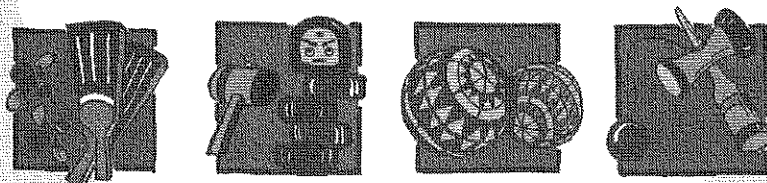
### この号のハイライト

P. 1 環境展2004 / P. 2 自然学習  
 講座 / P. 3 堆肥袋詰装置 / P. 4  
 製缶工場見学会 / P. 5 エコカッター  
 / P. 6 竹炭・環境と私 / P. 7  
 とよなか市民環境会議 / P. 8 見  
 直しワークブック

2004年(平成16年)12月号 NO. 9 (通巻第27号)

# みつめてみよう 地域と暮らし

## 地球温暖化防止はあなたが主役



# とよなか市民環境展2004

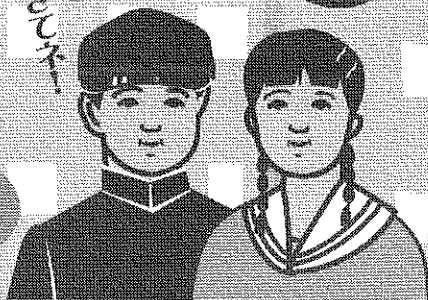
とき 2004年12月3日(金)・4日(土)  
 10:00~16:00 10:00~16:00

ところ 豊中市民会館 豊中市曾根東町3-7-1 阪急生野線曾根駅下車、東へ3分  
※ご来館の際は、バス・電車をご利用ください。

- 再発見!昭和のくらしコーナー
- 環境学習の発表(3日のみアクア文化ホールにて)
- 曾根駅前「エコゾーン」
- 「とよっぴー」で育てた野菜・竹炭等の頒布
- スタンプラリー
- エコカー・ペロタクシーの試乗
- リサイクル図書の配布
- 参加団体(約30団体予定)の展示コーナー
- 滋賀県甲賀の  
間伐材利用コーナー
- おもちゃの病院(4日のみ)  
修理してほしいおもちゃを持ってきて下さい  
イベント内容は都合により変更する場合がございます。

みんなを  
誘ってきましょう!

入場  
無料



飛ぶ・走る  
イベントが  
盛りだくさん!!

主催 NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21  
 共催 ○豊中市・とよなか市民環境会議  
 後援 豊中市教育委員会



NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21  
 ☎06-6863-8792

12月1日

例年開催しており、今年で13回目を迎える「とよなか市民環境展2004」が開催されます。今回は、次世代を担う子どもたちにも働きかけられるように、今年度は「エコゾーン」を再登場させるコーナーを設けました。少くも昔の豊かでエコロジーな暮らしを思い出し、また、会場の市民会館を飛び出して、曾根駅前まで「エコゾーン」を広げる取り組みも行います。

## 自然部会学習講座「里山の自然と昆虫・その保護」

今年度の第1回自然学習講座は10月9日(土)に  
くらしかんで行ないました。講師の先生は、大阪府立  
大学大学院農学生命科学研究科教授の石井実先生です。

石井先生は里山をフィールドにチョウ類の研究をさ  
れており、その分野から里山の重要性について、また、  
豊中の自然について教えて  
いただきました。

特に、絶滅危惧種のシル  
ビアシジミが豊中市に生息  
しているのを、ごく最近石  
井先生が発見された話は、  
豊中にもまだまだ貴重な生  
物や自然が存在することを  
強く感じました。シルビア  
シジミはヤマトシジミによ  
く似ており、本来はミヤコ  
グサを食べていたのが、シ  
ロツメクサを食べるよう  
になったため、豊中でも生息し続けていたのだらうとの  
ことです。

また、自然の回復について、ネットワーク、ソーニ

ング、コリドーという概念を使って説明されました。

ソーニングとは、「コア(中心=原生的な自然)~  
バッファ(緩衝帯=里山)~都市」という配置をする  
ことであり、緑化する際にもソーニングを考えること  
が必要だそうです。コリドー(回廊)とは、自然が孤  
立しないように結んでいく、生  
物が移動できる河川や緑の通路  
のことで、豊中でも猪名川の河  
川敷などを活用して箕面などの  
広い自然から、服部緑地へとつ  
なげていくことが必要だと提案  
されました。

講座の当日は台風の接近と重  
なったため、参加者は18名に  
とどまりましたが、終了時間が  
かなりオーバーするほどの活発  
な質疑応答があり、非常に充実  
した講座となりました。

また、石井先生からは、地域の自然を守るのは市民  
の声や力が重要だとの後押しをいただき、自然部会の  
メンバーも勇気付けられました。(廣田学)



講師の石井実さん

## 希少種リスト作りのための植物調査・春日神社の森に入る

自然部会では2年前から、豊中の希少植物リスト  
作りのための調査を行っています。

1999年~2001年にわたる3年間の「豊中版秋の  
七草調査」のまとめを行った結果、ワレモコウ、又ス  
ビトハギ、アキノキリンソウ等のかつて普通にみられ  
た種が今では希少種となり、これらを保護するため  
にも豊中市全体のリスト作りが急がれると考えたからで  
した。

まず「豊中市史・自然編」をもとに、掲載種1033  
種のうち希少種になろうとしている種を168種にしぼ  
りました。そして現地調査を始めたのです。これまで  
に青池とその周辺、泉丘周辺、長興寺の住吉神社など  
と7回の調査を行い、9月16日は宮山町の春日神社の  
森に入ることになりました。

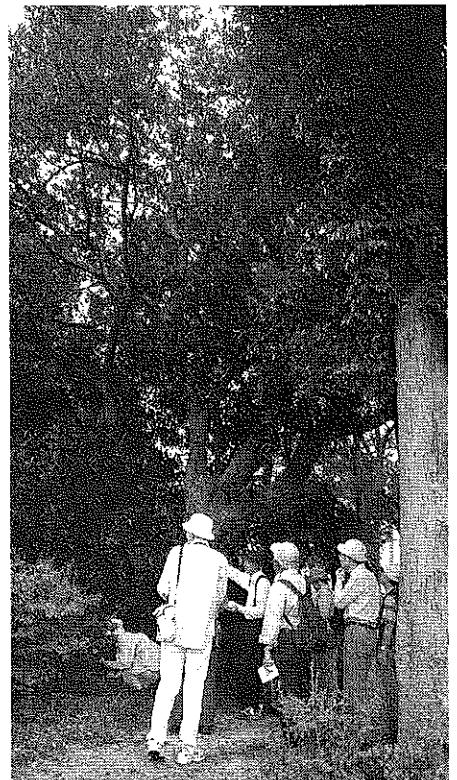
宮司さんのご好意で、通常は立ち入ることができな  
いうしろの森へ、14名の調査メンバーが入りました。

神社の表側からは想像できない広大な森が広がり、  
見上げるばかりの大木が続いています。

面積は20,000㎡以上あるそうで、シイやカシの古  
木がこれだけまとまって残されている所は、豊中で初

めて見ました。  
降り積もった葉  
が長い時間をか  
けてゆっくりと  
土になり、その  
ふかふかした林  
床の各所にキノ  
コも顔を出して  
います。又スビ  
トハギもしっかり  
残っていました。  
里山の森とは  
また異なった  
荘厳な社寺林の  
代表格として、  
今後も「豊中の  
鎮守の森」であ  
ってほしいと思  
いました。

(易信子)



# 花と緑のネットワーク

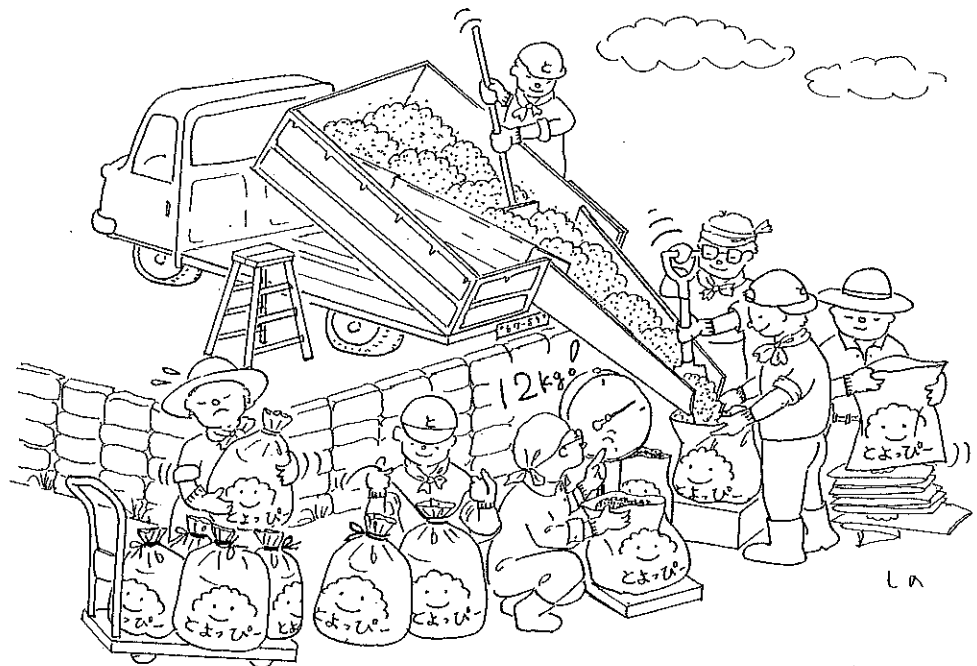
## とよっぴー簡易充填機で、袋づめ労力軽減!

豊中市のリサイクルプラザで生産される土壌改良材（とよっぴー）は協力農地や市の施設などに活用されるほか、昨年度から月2回1時間ずつの短い時間ですが、有料頒布を行い多くの市民の方からも好評を得ています。花と緑のネットワークは市と協働で配布・啓発事業を展開しています。昨年度は生産量の50%を越す44,429kg（配布実績表より）のとよっぴーが市民の方の手に渡りました。

当初の計画では10L、20Lの袋と違って、40Lの販売は、家からマイバックを持ってきてもらいつめていただくことにしてかなり安く値段設定をしました。しかし、販売初日から、予想を上回る購入者数、限られた時間と限られた駐車スペースでは、購入者がその場で袋づめ作業をするのは無理だと断念！ネットワークが前もって準備することにしました。

昨年度の有料頒布の総袋づめ数は40L入り（約12kg）だけでも2,665袋にも及びます。発酵熱でサウナ状態の熟成槽の中での手作業はきついです。

そんな状況を少しでも軽減できたらと、プラザの職員Aさんの発案（設計・手作り）で、ベニヤ板製「とよっぴーの滑り台」が完成。シャベルローダーでとよっぴーを軽ダンプに積み込み、荷台の傾斜とプラザ敷地と前の通路の段差を利用してという発想です。まだまだ課題はありますが、中腰のつらさの軽減と袋づめ能率は倍にアップしました。なにより、青空の下での作業は気持ちも晴れ晴れです。（高島邦子）  
（12月、1月の有料頒布はお休みです。）



うれしい発案「とよっぴーの滑り台」

## 豊能の協力農園へ芋掘り体験に行きました



10月13日秋晴れの日には花と緑のネットワークの協力農園の大谷農園（豊能）へ芋掘り体験に行きました。

広報誌の応募による市民の方が19人、とよっぴー倶楽部の方が6人、ネットワークのお手伝いが加わり総勢31人。軍手をしてスコップで「紅あずま」という種類のお芋を掘りました。ひとり2株ずつでしたが、多い人は大きなお芋を7、8個もとっていました。小さな子どもさんの参加はにぎやかで皆をなごませてくれました。一生懸命掘ったのでみんなあっという間でした。そのあと大谷さんから農家の苦労話を聞いたり、大粒の黒枝豆をみんなで枝からはずし、いただいて帰りました。お芋も黒枝豆も帰ってすぐに調理しましたが、新鮮な作物はたいへん甘くおいしかったです。来年が待ち遠しいです。（豊田佐都子）

## 産業部会・東洋製罐その他を見学する

産業部会は9月29日朝から茨木市の東洋製罐工場と、吹田市のアサヒビールを見学しました。参加者48人。ビール工場の見学は経験した人も多いでしょうが、製缶工場は機会も少なく興味深い1日でした。

### 入り口で靴にカバー

東洋製罐は容器の専門会社として、全工場でISO14001の認証を取得。茨木工場も今年5月に認証を取得しています。

まず会社の玄関でシューズカバーをもらい靴に被せる。金属工場らしからぬ衛生への気の使いように飲料水容器のメーカーだとまず感心します。20分間のビデオで会社の説明。製缶工場と言っても、今はペットボトルからパウチ（レトルト食品の容器）まで手広く造っているそうです。缶の製造に関しては、品質を保護するために内面にラミネートを貼り付けるのが自慢の技術。そのあと早速、缶を造る現場を見せてもらいました。

3列の製造ラインがあり、1つはアルミ缶、後の2つはスチール缶。少し離れた場所から見るのですが、それでも横の人の声が聞こえないほどの騒音。

原材料のアルミの板やスチールの板は幅1メートル余り直径1.5メートルほどのロール。それが製造ライン右端にある第1工程の装置に入り、次に幅広いベルトコンベアに吐き出されたときはすでに灰皿のような形に打ち出されて流れていきます。

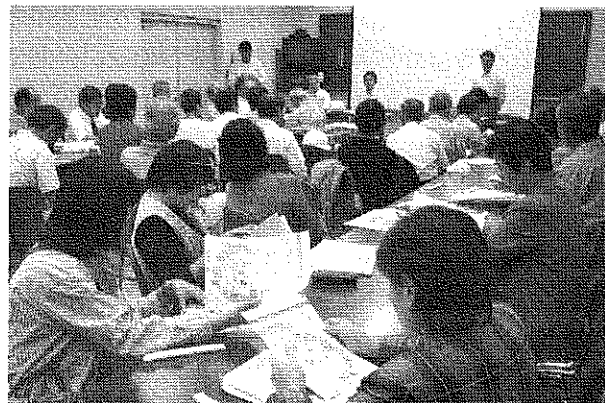
### 工程を重ねて缶の形に

1、2メートル移動して次の装置に入り、出てくると遠目にはほとんどビールやジュースの缶になっていました。さらに第3、第4工程の箱をくぐり、缶底の成型、缶の上部を切り揃えるなどがなされ、最後にラベルの印刷、汚れを調べるカメラテストをくぐります。私たちはコンベアと平行した見学通路を歩きますが、真ん中あたりのガラス張りの箱に入ると製造過程を示す製品見本がありました。手に取ってビールの缶の半製品をたしかめます。第1工程の灰皿が次第に薄い缶に変身していくのがよく分かります。工場見学にもいろいろなところがありますが、製品が段階を経て仕上がっていくのが見え、工程の分かりやすいことに奇妙に感心しました。

再びガラスの箱から出て少し行くとラインの終点です。各工程の装置の横には不出来な缶を入れる箱がありますが、出来損なってはねられるのはごく僅かなようでした。

### 無人の運搬車が走る

全体を見渡して工場内にはどこにも人影のないのが



不思議です。ほとんどの工程が自動化されているのに改めて気がつきます。製品運搬も無人車でアンテナらしいポールを立てて走っています。無人車の走る床下に誘導電流が流れているのでしょうか。

「ゼロエミッションは排出物5%以下を言うがうちが3%です」とはじめの説明で聞きましたが、食品容器のメーカーらしく、清潔そうなのが目立ちます。

検品を終えた缶は運搬のパレットに並べられ方形に積み上げられます。縦横が1メートルあまり、高さは背丈をはるかに越えて2メートルほどでしょうか。この工程に来て、はじめて労働者の姿を見かけました。

出荷する缶の集合体は汚れないよう1段ごとにコーティングした厚紙のような物が敷かれています。厚紙はそのまま積み上げられた缶が荷崩れしないようにする役割も果たしているのでしょう。帯をかけて括った上から大きなビニール袋を被せ、これで出荷オーケー。「輸送中に缶が変形したりしませんか」と訊ねる。「特別の車で運びますから大丈夫です」と返ってくる。もちろん清潔にも配慮した特製の運搬車だろう。

それにしても、製缶の現場は素人にも流れが一目瞭然と分かりやすく、また深絞りのプレスで仕上げる工程は感心するばかりの現場でした。

### アサヒビールの工場では

午後に見学したアサヒビールの工場は、製缶の現場を見た後だけに新鮮な感覚で見ることができました。

コンベアを流れてくる缶にビールを満ちし、別のホースから送られてくるふたを装着するあたりは、とくに関心を持って見入ることになりました。びんビールがだんだん少なくなっているのもさることながら、ペットボトルのビールを話題にした質問もありました。ガラスびんが缶に圧倒されている中でどうするか、答は見つからないままでしたが。  
(奥野享)

## エコライフカレンダーが重要に

エコライフカレンダーの特集が2004年6月の豊中市広報で4ページにわたり載りました。また、豊中市の「地域省エネルギービジョン」では、エコライフカレンダーによる環境家計簿の運動が省エネルギーの先導的な行動としてトップに取り上げられています。

こうした背景もあって、エコライフカレンダーのモニター数は118人から160人へと大幅に増えました。言い古されたことばですが「数はかなり」の通り、仲間を増やし今後もさらに発言を強めて行きたいと思っています。

## カレンダーの活用を

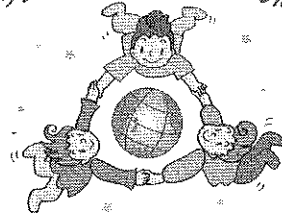
このカレンダーはそれぞれのページにエネルギー使用量を記入し「わが家の二酸化炭素排出量」を計算して、昨年のも니터の平均と比較できるようになっています。こうして家庭でのエネルギー消費量を知ること、減らすための工夫が始まります。どうしたら減らすことができるか、その体験例が「モニターさんからの感想」のページにまとめられて載っています。また各ページにも省エネのヒントがいっぱいです。

こうして「わが家の二酸化炭素排出量」を記入したら、カレンダーの最後尾にある葉書に書き写して送るようにできています。それが豊中市民の省エネルギー行動の実態を示す資料になっていきます。データを提供いただいた皆さんには「モニター倶楽部」のニュースをお送りし、学習会も開いたりして交流したりしています。

## 魅力あるカレンダーとしても

カレンダーとしてもできるだけ身近に置いてもらえるよう、豊中の子どもの風景をテーマにした写真が大きく載せられています。また、豊中で私たちのいろ

## 2005年 エコライフカレンダー ストップ地球温暖化、次世代のために



また、豊中市環境家計簿の発行に際しては、市民の理解と協力をお願いしています。また、豊中市環境家計簿の発行に際しては、市民の理解と協力をお願いしています。

いろな活動が写真で載せられていてアジェンダ21の紹介にもなっています。

## 新しい年の環境家計簿としては

今年から2つの点で環境家計簿に小さな変更が加えられています。

- ①電気の排出係数を昨年までは関西電力独自の数値(0.26kg)にしていたましたが、他との対比がしやすいよう全国共通の数値(0.36kg)に変更しました。
- ②車あり世帯と車なし世帯に区分して排出量の合計をだしていましたが、電気・ガス・水道の3項目が一番関心のある項目なので小計し、ガソリン使用量を加えた合計にしています。

## 「モニター倶楽部」第2号を発行

相互交流の広場としての「モニター倶楽部」を発行しました。今号は、葉書で寄せられている声をメインにし、来年から改正する電気の排出係数のことや集計方法の変更などについて解説しています。(奥野享)

## アジェンダにはあなたの居場所があります

ちょっといい豊中見つけに歩く運動(企画屋本舗)/千里中央公園で竹炭を焼いたり(竹炭プロジェクト)/給食の調理くずと街路樹の小枝から堆肥を作り、また家で手軽にできる堆肥作りの講習(花と緑のネットワーク)/環境家計簿をつけて日々の暮らしの省エネを追究(生活部会)/自然観察から自然を守り育て・自然を創り広げる運動(自然部会)/エコドライブから環境に配慮した交通(交通部会)/環境に配慮した事業活動(産業部会)など。連絡は 6863・8792 アジェンダ21事務局

## 竹炭プロジェクト・はじめて参加した竹炭作り

### 煙りが透明に近いブルーになるまで

広報とよなかに、とよなか市民環境会議アジェンダ21竹炭プロジェクトと、なんとも厳めしい名前で、竹炭焼き体験をしてみませんかとの記事。どんな活動をしているのかな、一度覗いてみよう、不安と期待でドキドキしながら参加してみた。

ドラム缶窯の設置に始まって竹材の詰め込み、火入



れ、消えないようにうちわでパタパタと、きわめて原始的だがこれがとてもおもしろい。日頃のストレスも燃えて飛んでしまうと思いながら皆でワイワイ、ガヤガヤ。これこそ私が求めていたグループとの出会いやなあと考えた。

誰かが「備長炭という炭、何で備長炭というのやろう、知らないか？」ちょっと曖昧な答えが…。過日読売新聞に随筆家白州正子さんが書いておられた。材料

はウバメガシで江戸元禄年間に紀州の人、備中屋長左衛門が製法を工夫され、その名前をとったそうです。炭焼きのコツは、「暗夜に霜の降るごとく」じっと焼くあいを計ること、と書いてあった。

みんなのドラム缶窯も6時間程火を調節しながらじっと我慢して、煙が透明に近いブルーに変わるまで、あと何分待ちかと待ち遠しい。終了を告げる煙が完全に透明になった時の喜びは感無量、この感激に酔うためにこれからも続けたい。

これがまた健康で元気な素でもある。みんな一緒に楽しもうね。  
(川並清忠)

### 容器包装リサイクル法改正意見書を市議会で採択

容器包装リサイクル法改正を求める意見書は、9月30日の豊中市議会全体会議で満場一致で決定されました。

今年4～5月にかけて、私たちの取り組んできた署名運動について、かねて豊中市議会が政府および国会に提出する意見書として決定されるようお願いしていましたが、今回各会派の共同提案により決定しました。  
(奥野享)

## 環境とわたし

世界の森林減少の一因は違法伐採によるものです。インドネシアで希少種として保護しているラミン材が、マレーシアやシンガポール産と偽り日本に多量に入っています。私の参加する「ウータン・森と生活を考える会」と「ラミン調査会」は、ここ数年南港などに行き、税関や取引業者の聞き取り調査、ホームセンターなどの店頭調査をしました。最初は、調査目的を明らかにできず苦労しましたが、インドネシア政府と日本政府の違法伐採防止の協力宣言で、動きやすくなりました。

教育委員会や業者にも働きかけました。ラミンはホウキやモップの柄に使われています。学校で子どもを使うホウキが違法材なら大問題です。竹ボウキのほうが安価で環境にやさしい、と提案し自治体も業者も転

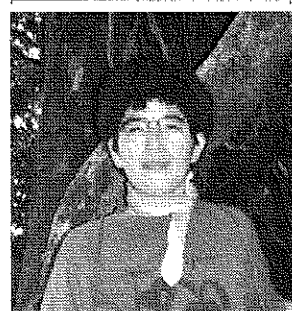
## 井下祥子さん

換を約束してくれました。

インターネットで調べると、写真のフレーム、家具の一部、ベビーベッド、カーテンレールなど、何百と業者があります。各企業にアンケートを送り、扱う商品、他の材への転換予定の有無などを伺い、転換をお願いしました。結果、多数の企業が「転換する」と回答をくれました。お金も人手もない中で大変でした。

これが10年前だったら、いくら政府の方針に沿うといっても、NGOの働きかけに感じてくれる企業はなかっただろうと新聞社の人に言われました。

市民運動の時代であることを実感しています。



## 第6回とよなか環境フォーラムを開催

10月23日、すてっぷホールにおいて、第6回とよなか環境フォーラムを開催しました。『豊中市環境報告書（2003年度中間報告）』の説明の後、「都市における水辺・みどりの形成」をテーマに、基調講演・パネルディスカッションを行いました。

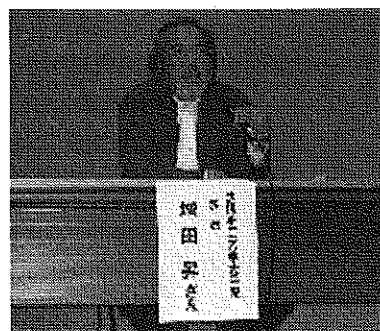
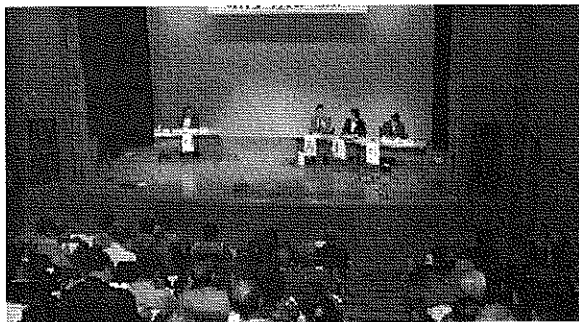
まず、大阪府立大学大学院教授 増田昇先生から、水と緑のネットワーク形成の重要性と今後の取組みの方向性等について、

生物学的な観点も交えながらわかりやすくご講演をいただきました。その後のパネルディスカッションでは、NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21 理事 自然部会長 山口 壽 さんから、市民団体による身近なみどりを保全するための活動についての紹介があり、



大阪府池田土木事務所建設課技師 矢野 克己 さんからは、市民と行政等の協働事業として進められている天竺川における自然環境保全プロジェクトについての紹介がありました。市の緑化事業について、市の公園みどり推進課職員から説明した後、市民・行政が協力して水辺・みどりの保全についての取り組みを進めることに関する意見交換がなされました。

参加者からも活発に質問や意見が出され、終了後、「水や緑に対する関心が高まった。」「自分も身近な活動に参加していきたい。」といった感想が、参加者から聞かれました。深刻化する地球温暖化やヒートアイランド現象などに対して、みどりはもとより水辺の果たす役割も大きく、その保全や形成のためには、市民・事業者・NPO・行政などの協働とパートナーシップによる取り組みが必要であるであるとの認識が、共有化できたフォーラムでした。今回の内容を、今後の取り組みにそれぞれの立場で生かしていければと思います。



## アジェンダ見直しワークショップを振りかえって

7月13日から始まった「Newアジェンダ」づくりのワークショップは、10月27日で全日程7回が終わりました。この間会議に参加し、新しくまた若い感性を注入してくれた参加者の中から4人に感想をもらいました。

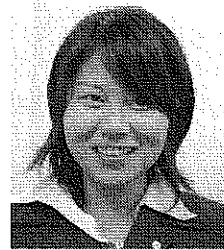


### 発言の機会に感謝

高塚航太 (学生)

私の取り柄は、ただ「若手」それだけでした。本来、実績、経験の順に諸先輩方からご意見頂くべき所ですが、アジェンダでは逆に若輩の私から発言機会

を頂いてしまいました。恥ずかしいやら恐縮しつつ・でしたが、とても楽しく参加させて頂きました。



### 今後も参加します

田中望 (学生)

初めて豊中アジェンダに参加しました。皆さんとても暖かい方で新参者の私も楽しく話に入ることができました。色んな立場の人達と一緒に、豊中をよく

するために考えていくことが出来てとてもよかったです。これからも参加したいと考えています。

### 環境のイメージは

秋田あき子 (主婦)

“環境”でイメージするのは、ごみ・水・空気である。特にごみは毎日の生活で切りはなせない問題。舗道にはタバコの吸殻、川にもごみがたくさん捨ててある。日本人はマナーが悪くなったのか。やはり幼児期から教えることが大切だろう。そんなことを思った。



### 市民アピールこそ

永富聡 (会社員)

人間味溢れる参加者の方々の想いや熱意が伝わり、大変な刺激を受けました。多くの知恵と活力を結集し、アジェンダ独自の取り組みのより一層の推進が望まれますが、あまり関心のない市民の方々（特に若者、女性）へのアピールが大きな課題だと感じました。



## 編集室から

▼近頃都に流行るもの、何でも指標化したがるが…。実は指標として数値化し難いものもある。経済成長はGDPで計るがGPI（環境や社会コストを考慮した指標）という物差を当てにくい指標が環境白書にもでている。ボランティアの無償の働きも経済では計れないが成熟社会に欠かせないものだろう。(Z)

▼「災害は忘れた頃にやってくる」は死語になった今年の日本の自然災害。今世紀前半と予想される東南海地震、百近くもある活断層の日本列島に住む私たちの生活。今の生活がこのまま続くと考えてはいけなと思った。さて、何から準備したらよいのだろう。(W)

▼環境に負荷をかけすぎたのか、今年の台風はホントに容赦ない感じ。水俣のみかん農家も収量は2~3割減「自然の厳しさを謙虚に受けとめ次に繋げていきたい」と添えてあった。台風で散ったキンモクセイが橙色の絨毯を敷き詰めてくれ、とても美しかった。(Y)

▼環境フォーラムでは、多くの方に参加いただき、活発な意見交換がなされたことに、都市の中の水辺やみどりといったものの重要性と、これまで多くの方が地道に取り組みを続けてこられたことを再認識しました。

(R)

▼先日、服部緑地とつながる天竺川の環境をよりよくするためのワークショップで、天竺川沿いを歩きました。ずっと緑を感じて歩ける素敵な空間でした。環境フォーラムの講演で増田先生が水と緑は切り離せないとおっしゃっていたことを実感しました。(J)

▼この陽気はいったいどうなっているんでしょう？季節は確実に進んでいるとは思いますが…。ここまでできたら、環境展の日が暖かく、いいお天気になってほしいですね！ひとりでも多くの方が足を運んでくださいますように。m ( ) m (P)

《広報チーム》

Z奥野、W岩瀬、Y小村、R大和、J井上、P大村

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>  
Eメール [ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp](mailto:ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp)